

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

AI活用専門委員会

1/3

企画戦略委員 石岡 謙 (富士通) 三宅 滋 (日立製作所)

登録委員数 22委員 (12会員)

委員長・副委員長/
リーダー・サブリーダー
委員長：宮澤 雅典 (KDDI) 副委員長：岩崎 順子 (NEC)

図解

活動の目的・意義

- AI活用によりサービス基盤の高度化が見込まれる領域を選定し、などの、各テーマの具体化検討、技術ドキュメントの作成により、会員企業へ情報提供を行う。
- AI活用を推進する上で必要な世界中の知見収集と情報発信により、会員の新たなサービス創出や最先端ビジネス環境の構築促進につなげる。

活動する上での課題
(人材面や運用面での課題を含む)

- 調査対象ユースケースの広がり不足
- 課題抽出、アーキテクチャへの検討深度の向上
- 会員企業の関心が高いと思われる活動テーマを選定することで委員会活動の活性化を図る



標準化方針

(1)設置時の4検討対象テーマについての検討を継続。①エッジ型アプリケーション高度化、②サービスデリバリー・運用自動化、③設備障害予測・保守効率化、④サイバーセキュリティ対策

(2)ユースケース調査、具体課題の設定と調査に注力し、その結果をベースにその後のWork Item、成果物、関連専門委員会との連携に努める。

(3)AI適用時の品質・信頼性・説明責任について、委員会活動テーマの範囲において、あるべき姿の検討を行う。

(4) 成果物は、標準を含め、会員の事業に寄与するものとし、あらゆる知見、発見、情報を考慮する。



国内外の標準化団体等の動向

- IEEE : AI Global Initiative for Ethical Considerations in AI and ASで論点整理。Ethically Aligned Design(EAD)ver.2発行。
- ITU-T SG16 :健康・マルチメディア関連 FG-AI4H(2018/7月)
SG2 : AIによる自然災害管理 FG-AI4NDM(2020/12月)
SG13 : 自律型NW FG-AN(2020/12月)
SG20 : 農業対応AIとIoT FG-AI4A(2021/10月)
TSAG : Metaverse関連 FG-MV(2022/12月)
- ISO/IEC JTC1:SC42設立(2017/10)。国内審議:情報規格調査会
- ETSI : ENI(Experiential Networked Intelligence:2017/2月)
ZSM(Zero touch network and Service Management:2017/12)
- TM Forum : 顧客体験、サービス、網の各管理へのAI応用のPoC等。
- OSS系 : ONAP、Acumos、TIP(Telecom Infra Project)等。

AI実装位置例

<p>新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● AI活用時の説明責任に関するTR（TR-1099：AI活用時の説明責任に関する事例調査）の増補改訂を下記観点で行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信が中心となるユースケースを追加することで、通信領域のAI倫理のケーススタディを追加 ・ AIのリテラシー向上とAIの普及促進に資することを旨とするため、AIを構成するシステムアーキテクチャの基本解説を追加 ・ 各SDOでの検討状況に関わる情報の共有 ● TTC会員企業にとっての関心領域と思われる、通信関連領域/サービスを中心に、AIを適用したユースケース調査と掘り下げ検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信領域へのAI適用時における、具体的課題の推定と検討 ・ メタバースなどの新領域へ調査を拡大 ・ 特定分野の専門家/有識者を招いてのセミナー企画
---------------------------------------	---

<p>関連する専門委員会または外部組織とその内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信号制御、Network Vision、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワークの各専門委員会（2030年を見据えた将来網検討）と共同して、IoTエリアネットワーク専門委員会でのユースケース検討結果を踏まえたWI検討
------------------------------	--

主な活動項目	概況指標	2023年度目標(当初計画時)	2023年度実施状況	記事
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	寄書数	-	-	
	外部会合への参加・連携状況	必要に応じて実施	未実施	
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート</p>	JJ標準	0件（予定しない）	0件	
	TS/TR/SR	0件/1件/0件	0件/1件/0件 ・TR-1099v1.1 （AI活用時の説明責任に関する事例調査）	
<p>③ ダウンストリーム</p>	数	-（予定しない）	-	
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	セミナー	AI活用に関するセミナーの開催	・専門家/有識者を招いての、生成AI活用に関するセミナーを実施予定(3月)	
	記事投稿、講演会	必要により検討	未実施	

<p>新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生成AIを活用したサービスを中心に、生成AI活用におけるガイドライン、開発者向けガイドラインの動向等の倫理課題と利用者側の注意すべきポイントや利用時注意点等の整理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ AIのリテラシー向上とAIの普及促進に資することを旨とし、生成AIを実現するアーキテクチャの基本調査 ・ 各SDOでの検討状況に関わる情報の共有 ・ 各国における生成AI適用ガイドラインの調査 ●生成AIの適用促進を目的に、多様なユースケースの調査を行い、適用されているアーキテクチャやその適用事例の調査を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信が中心となるユースケースの調査から、通信領域におけるAI倫理のケーススタディの調査 ●TTC会員企業にとっての関心領域と思われる、通信関連領域/サービスを中心に、AIを適用したユースケース調査と掘り下げ検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信領域へのAI適用時における、具体的課題の推定と検討 ・ 特定分野の専門家/有識者を招いてのセミナー企画
--	---

<p>関連する専門委員会または外部組織とその内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信号制御、Network Vision、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワークの各専門委員会（2030年を見据えた将来網検討）と共同して、IoTエリアネットワーク専門委員会でのユースケース検討結果を踏まえたWI検討
------------------------------	--

<p>主な活動項目</p>	<p>概況指標</p>	<p>2024年度目標(当初計画時)</p>	<p>2024年度実施状況</p>	<p>記事</p>
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	<p>寄書数</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	
	<p>外部会合への参加・連携状況</p>	<p>必要に応じて実施</p>		
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート</p>	<p>JJ標準</p>	<p>0件（予定しない）</p>		
	<p>TS/TR/SR</p>	<p>0件/0件/0件</p>	<p>0件/0件/0件</p>	
<p>③ ダウンストリーム</p>	<p>数</p>	<p>TS: 回 TR: 回</p>	<p>TS制定 TR制定:</p>	
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	<p>セミナー</p>	<p>AI活用に関するセミナーの開催</p>		
	<p>記事投稿、講演会</p>	<p>必要により検討</p>		